

Title	堀江教授著 銀行論
Sub Title	
Author	千金良, 宗三郎
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.2 (1914. 3) ,p.251(125)- 252(126)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140300-0125

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「ダラムスタット」銀行を創立し千八百五十五年資本六千萬法を以て「西班牙動産銀行」を立て次で「伊太利動産銀行」を興し、更に此の銀行自ら親會社となりて瓦斯工場、鐵道及不動産會社を設立し、千八百六十三年同一の目的を有する和蘭商工業動産銀行を「アムステルダム」に創め、千八百六十三年倫敦に國際金融會社を興し、且つ土耳其銀行を興したり。動産銀行は更に「巴里不動産會社」を設立す。此の會社は一方自ら土地を所有して都市擴張を請負ふと共に、他方、數多の土地會社を所有せり。されど是等諸會社と親會社との關係は其の詳細を窺知する事能はず。

既に述べ來りしが如く、動産銀行に於ては普通の銀行業務は全く背景の地位に立つものにして銀行が其の設立したる各企業との間に有する關係は受動的に各企業其經常の收入を銀行に交付し他動的方面に於ては、銀行が前貸を各企業に許す處にあり。而して銀行が自己の設立した

る企業と、上述せる關係に依りて結合する事は今日金融會社に於て殆ど常に見る所の事なり。「ソシエテ、ゼネラル」及び動産銀行は寔に、金融會社の嚆矢なりと雖も其の業務の經營に就ては、當時已に存在せし金錢調達を掌る機關即ち銀行事業とは密著不離の關係を有したる事勿論なり。

此の兩會社に依りて開拓せられたる事業は其の後各國に於て、數多の方法により各其の信用制度、詳言すれば、各國殊有の會社設立に關する法制に準じて次第に發展し行けり。今項を逐ひて獨、佛、英の順序により、其の狀況を略述すべし。(未完)

雜 報

堀江教授著 銀行論

此處に紹介せんとする銀行論は明治三十七年初版發行以來大正元年に至るまで版を重ねること十有三、其の間時々改訂を加へられたるが、今亦全篇に互り一大改訂を加へ、現時の通貨金融の諸問題の了解と解釋とを容易ならしむる努められたり。此最近版を第十三版と比較する時は頁數の増加は百頁を超えずと雖も内容の充實は到底僅々百頁の比に非ずして理論と實際の兩方面に於ける研究は益々精細を極めたり。

今各章に互りて改訂増補せられたる箇所の概要を擧ぐれば、預金の章に於て預金發生原因各説、東京の五大銀行當座定期日歩計算法の協定、各國手形交換所の實際等、割引の章に於て英佛諸國に於ける最近の事實、沿革上に於ける詳細なる記述、割引政策の運用、割引政策の補助手段、割引歩合の決定と中央銀行の任務等、貸付の章に於て日米兩國に於ける最近の實例、準備金の章に聯合準備金制度を論ずるに當り特に一九〇七年交換所貸付證券發行の顯著なる點及其後の狀況等何れも増補訂正せられ、(米國國定銀行の章に於て民主黨を代表する銀行制度改正案は著者執筆中議會審議中に屬するの故を以て省きたること序文の如し) 英國銀行並に蘇格蘭銀行の章に於て英國銀行臨時貸

上金の細別金融緊縮時に於ける英國銀行、市中銀行、手形仲買人の間に於ける微妙なる關係、尙「コンソール」公債の利廻より英國銀行の配當に至るまで微細なる點と雖も改訂を怠られず、殊に英國預金銀行制度の發達により制限外發行の論議近時跡を絶てる其間の消息を最も簡に記述せられ、蘇格蘭銀行支店制度發達の原因に就きて亦増訂する所あり、獨逸帝國銀行の章に於ては帝國銀行の組織、帝國宰相の批准權運用の實例等精細の度を加へ、殊に其の制限外發行法が割引歩合壓實の度に大なる關係なく又事變通貨供給法として其弊多くして到底英國預金銀行制度發達の結果預金通貨による事變通貨供給法の敵に非ざる事、並に一九〇九年の條令改正を増補せり。佛蘭西銀行の章に於ては佛蘭西銀行正貨準備の實説、銀行の政府に對する無利子貸上金の増加額及納付金を農業信用機關へ運用せる事實、並に佛蘭西銀行條令改正問題、資本金積立金の章に於ては佛國の例を増補し、隱匿積立金を附記したり。銀行の監督並に検査の章に於て獨逸の實例、我國銀行制度の章に於て明治四十四年以後日本銀行金利歩合規程の改正、銀行利率と市場利率との對照表、特殊金融機關の章に於て最近我國に於ける資金融通法の改正、米國信託會社最近に於ける破綻の實例、外國爲替の章に於ては倫敦爲替市場の特色に對するウィザーズ氏の批評、及伯林市場の實際、各々増訂せられ、恐慌の章に於ては前版に分類せられざりし資本消耗直接の原因にも分類を施したり、尙恐慌

に對する方策を論じ國際間の協力、自由金市場と恐慌の二項を増補し自由金市場たる倫敦が他國の恐慌救済に重要な地位に在ることを述べたり、尙其他全篇に互り統計を總べて最近の數字を以て更へられたり。

以上は新版の増訂部分を概略摘記したるに過ぎず、蓋し本書の價値に就ては世既に定評あり敢へて贅せず、終りに臨みて巻頭各節下の項目を増補し讀者に其の要領の暗示を與へらるゝに努められしが如き、用語と共に可及的原語を附して彼我對照を便にし且つ原書編譯の用意を與へられしが如き後進を指導するの厚きに感謝して筆を擱くものなり。(千金良宗三郎)

理財學會々報

理財學會組織變更 元來理財學會なるものは、堀切教授が未だ本塾學生たりし頃同志の學生と共に、明治三十六年三初めて組織したるものにして、其の目的は純理經濟學を研究、時事問題を討議すると同時に時々講演會を開き、朝野知名經濟學者又は財政家を招聘して、其の説を聞く事にありき。かくして理財學會なるものは漸時隆盛に赴きしも、其の後堀切教授は卒業し、直ちに歐米留學を命ぜられしを以て、理財學會も從つて振はず、何時か其の目的は變更せられて、只時々例會大會なる名の下に講演會のみを開催する事となり、學生の討論究は再び行はれざるに至り以て今日に及びぬ。

會員とし後者を特別會員とす

一、本會は毎月一回雜誌を發行し會員に配付す

一、通常會員の會費を一ヶ年金壹圓八拾錢とし之を三回に分ち授業料と共に會計部に納付する事とす

一、特別會員の會費は一ヶ年金貳圓とす

且本會は毎學期一回講演會を開き、會員に傍聴せしむ、又學生の勉學を奨励し、卒業生諸君の研究の結果を發表せん爲め、會員諸彦の寄稿を希望す。

第六十七回理財學會秋季大會

大正二年十月十一日第六十七回秋季大會を三十二番講堂に開催す。帝國大學法科教授法學博士山崎覺次郎氏は「金貨の流通せざる金本位國」なる演題を掲げて、酒々數千言、我國の貨幣制度を論じ、直輸入商堀越善重郎氏は「産業に對する銀行業者の責任」なる演題の下に、振はざる我國今日の産業を隆盛ならしむるは銀行業者の責任なりと論じ、勸業銀行總裁志村源太郎氏は「獨立自尊と産業組合」と題して、獨立自尊の産業組合に必要な所以を詳論し内務省商工局長岡實氏は「生産力の増進に就いて」なる演題を掲げて、今後我國運の發展は、之を生産力の増進に俟たざる可からずとて、生産要素たる土地、資本、勞力の我國に於ける状態を詳論して、工業を以て生産力の増進を計るに最も適せる所以を論及し、斯くて最後に、高等商業學校教授法學博士志田紳太郎氏は「支那問題に就いて」と云ふ時事問題の下に、博士が支那

隣つて三田學會雜誌を見るに、經費の都合上時々發行を停止し、明治四十三年頃は會員組織の下に月刊雜誌たりしも、學生の入會は任意たりしを以て、經費問題の爲め、一時發行を停止し、其の後明治四十五年に至り、高城教授を編輯主任とし、裝釘を新にし、四季刊として發行を繼續するに至りぬ。然れども發行部數多からざりしを以て、常に經費問題の爲めに諸種の困難に遭遇したり。

近來理財科學生中に理財學會の組織目的を會得する者少なく且亦幹事も其の目的の常道を逸したるを知り、之を改正せんと議論を生じたる所、三田學會雜誌を理財學會に於て經營しては如何との議論を生じたれば、本會は理財科學教授の賛同を経會の組織を變更して、理財科學生全部を包含する會員組織のものとなさんとす、理財科學生全部を包含する會員組織の理財學會なるものを組織するに至りぬ。而して本會の主たる事業として、三田學會雜誌を引継ぎ、堀江、高城兩教授を編輯主任とし、石田義塾幹事を會計監督とし、月刊雜誌として大に其の發展に勉め本塾大學の機關雜誌として、學界に重きを爲さん事を期するに至れり。

次に本會組織の概要を擧ぐれば

一、本會は理財學會と稱す

一、本會は經濟に關する學術の研究を目的とす

一、本會は理財科學生全部及び塾員有志よりなり前者を通常

にありて實地見聞せる所より、支那の現状の渾沌たる所以を説き、此状態は今後數百年を経過せざれば止まざるべく、支那問題は今より漸時發展するものにして、今日は只其の端緒なりとて、詳細に支那の現状より將來を論述して、午後六時拍手喝采の内に無事閉會す。閉會後志田博士を主賓として、舊ヱイカースホールに晩餐會を催し、主客歡を盡くして十時散會せり。

鎌田塾長並堀切教授歸朝歡迎會

去る大正二年五月中旬世界漫遊の途に上られし鎌田塾長は十一月十六日、又七月上旬帝國議會の代表として、ヘーグ萬國議員會議に參列せられし堀切教授は同十一日無事歸朝せられたるを以て理財學會は其の歡迎會を十二月十一日午後六時より舊ヱイカースホールに開催す。宴酣なるに及んで、鎌田塾長は滿面に笑を湛へつ、漫遊中の所感を語られ、然に米國に於て、舊本塾教授ヱイカース先生より鄭重なる歡迎を受けたる次第を述べられ、次で堀切教授は「今回は學術視察には非ざるを以て、諸君に敢て話すべき所非ざるも、獨逸に於て、バルカン問題に關し、獨逸人と論議せし所あるを以て、其願末を御話せん」とて

「獨逸在留中、一獨逸人がバルカン戰爭に對する私の所感を尋ねし時、私はブルガリヤは暴虎馘河の勇に乗じて、少々戰爭をやり過ぎた概がある。其の結果同盟國の同情を失ひ、損失を蒙つた。若し日本が勃牙利であつたならば、日本は止るべき所で止り、勝つて兎の緒を締めるの手段に出たであらう。